

平成 9 年度イセエビ放流技術開発事業(抄録)

一ノ宮 誠・天真 正勝・山添 喜教

将来のイセエビ人工種苗放流の可能性を考慮し、主にイセエビの初期生態を明らかにする目的で放流技術開発事業（基礎技術開発）を実施したので、その概要を報告する。なお、当事業の全体については平成 9 年度放流技術開発事業（基礎技術開発グループ）報告書を参照されたい。

プエルルス幼生及び稚エビコレクター調査

由岐町及び日和佐町地先においてコレクターによる採集調査を行った。由岐町については漁港の堤防周辺に 10 定点を設け、キンランタイプコレクター（目合い 1cm，60cm×20cm×45cm，体積 54000cm³ のタコカゴにキンラン 10 本を詰めたもの。）を各定点に 1 基ずつ設置した。また、プエルルス幼生を効率よく採集することを目的とした大型コレクター（目合い 1cm，体積 546000cm³ のカゴにキンラン 50 本を詰めたもの。）を作成し、同湾内に設置した。日和佐町においてはキンランタイプ及びテープタイプコレクター（長さ 500mm，幅 5mm のフィルムを束ね、これを 300mm×500mm の基盤に取り付けたもの。）をそれぞれ 4 基ずつ設置した。両地区において、4～12 月の調査期間中にプエルルス幼生 84 個体，初期稚エビ 28 個体を採集することができた。このうち、大型コレクターによる採集はプエルルス幼生 32 個体，初期稚エビ 6 個体であった。本年度は 7 月に 1 回目の採集ピークがみられ、その後、10 月から 11 月にかけて 2 回目のピークがみられた。

潮流調査

プエルルス幼生の着底に与える潮流の影響を明らかにするため、由岐町地先において潮流調査を行った。その結果、プエルルス幼生が着底場所を決定する 1 つの要因として、潮流の影響が伺えた。

コレクター採集稚エビの飼育試験

コレクター調査により採集された一部の個体について、飼育試験を行った。その結果、オキアミ，ムラサキイガイ，魚肉，配合飼料の 4 種の餌別による飼育試験において、稚エビの成長・生残に差異がみられた。本年度使用した餌の中では、ムラサキイガイを与えたものが成長・生残ともに優れていることが観察されたが、体色についてはイセエビ特有の赤色とはならなかった。

潜水によるプエルルス幼生及び稚エビの観察・採集調査

牟岐町，海南町及び穴喰町地先の岩礁域において潜水による観察・採集調査を行った。牟岐町の調査ではプエルルス幼生の採集を行うことができ，生息状況を確認することができた。

稚エビ標識放流調査

稚エビの移動，分布及び成長等を明らかにするため，12月18日，日和佐町地先において稚エビ211尾を標識放流し，再捕状況の追跡調査を行った。3月31日までに同群の再捕報告はなかった。

標識稚エビ飼育試験

平成7年度及び8年度標識放流群の一部を水槽にて飼育した。平成7年度飼育群（50尾）は11月27日までに標識脱落17尾，へい死17尾となった。平成8年度飼育群（40尾）は11月27日までに標識脱落1尾，へい死3尾となった。

胃内容物調査

稚エビの食性を明らかにするため，由岐町阿部地区において漁獲されたイセエビ50尾の胃内容物調査を行った。その結果，多毛類，腹足類，二枚貝類，フジフボ類，カニ類，十脚類等を主に捕食していることが判った。

フィロゾーマ幼生調査

調査船による稚魚ネット調査により，91個体のフィロゾーマ幼生を採集した。本年度採集されたフィロゾーマ幼生は全てセミエビ属であり，イセエビ属のフィロゾーマ幼生は採集されなかった。